

経営比較分析表（令和5年度決算）

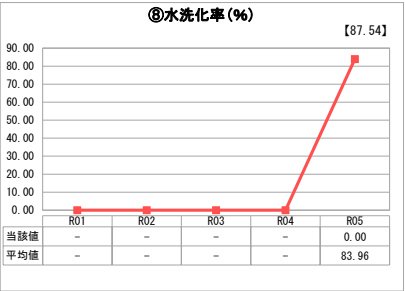
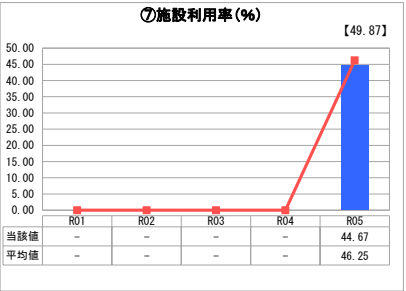
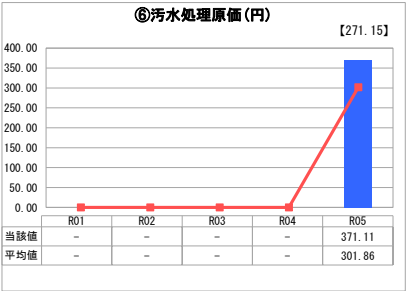
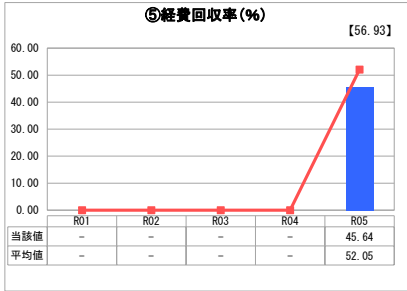
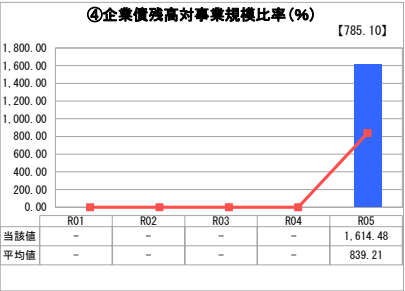
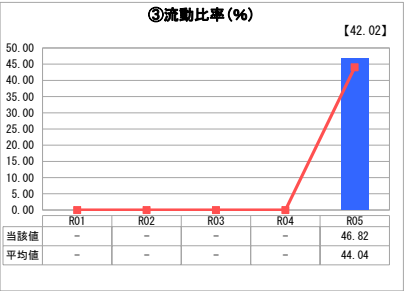
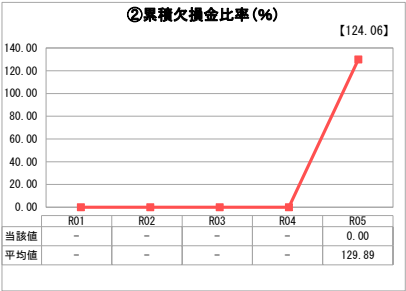
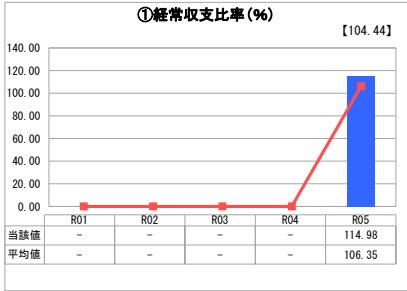
埼玉県 美里町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	82.28	27.90	100.00	3,741

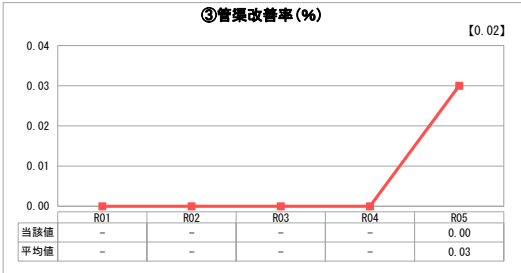
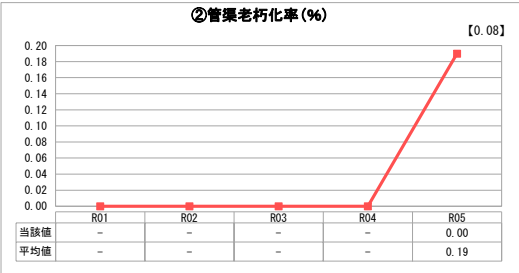
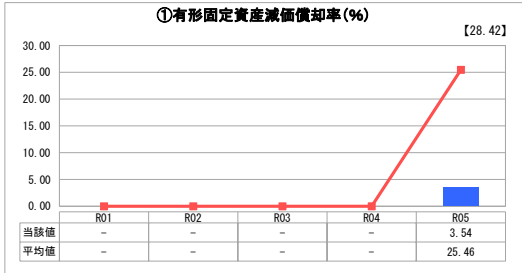
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,819	33.41	323.83
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,010	2.39	1,259.41

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

令和5年度に法適用したため、令和4年度以前の数値が未記載になっている。

①経常収支比率
令和4年度に料金改定を行い、段階的に料金の増加が見込まれているため、比率が増加していくと考えられる。
しかし、一般会計からの繰入金で大部分の費用を賄っている状況であり、今後料金改定を検討する必要がある。

②累積欠損金比率
累積欠損金は発生しておらず、健全な状況と考えられる。

③流動比率
短期的な支払能力を示す値で、100%を下回っているため、支払能力が十分あるとは言えない状態である。経営改善を行っていく必要がある。

④企業債残高対事業規模比率
企業債残高の規模を表す指標で、平均値と比較し、高い水準であり、使用料収入に対し残高が大きい状況である。接続率向上のための施策を行い、経営の健全性確保に取り組んでいく。

⑤経費回収率
使用料で回収すべき経費をどの程度使用料で賄えているかを示す指標であり、100%を下回っており、類似団体平均値よりも低い水準となっているため、使用料の改定検討や、経費の削減が必要である。

⑥汚水処理原価
汚水処理に係るコストを示す指標であり、類似団体平均値よりも高い水準となっている。

加入促進等により接続率を向上させ、有収水量の増加を図る必要がある。

⑦施設利用率
施設利用率の加入が進まないため、類似団体の平均値を下回っている状況である。

今後、個別訪問・DM・広報誌などにより加入促進を行い、接続率を向上させる必要がある。

⑧水洗化率
今年度転記漏れのため、本来の水洗化率は74.16%である。類似団体平均値よりも低い水準となっているため、さらなる加入促進に努める必要がある。

2. 老朽化の状況について

美里町の農業集落排水事業は平成7年度に十条処理区、小栗処理区、平成9年度に広木処理区、平成10年度に沼上処理区、円良田処理区、平成16年度に駒衣処理区、平成25年度に南部中央処理区が完成し、全7処理区が供用開始となったが、老朽化・維持管理コストの観点から令和5年度に十条処理区及び沼上処理区が公共下水道へ接続したことにより、現在全5処理区での供用となっている。

すでに供用開始から約20年経過している処理区もあり、施設の老朽化により維持管理費は増加傾向にある。

このため、最適整備構想や維持管理適正化計画を基に、施設の統廃合やダウンサイジングを検討するほか、適正な機能保全を行い、維持管理費削減や施設更新費を抑えることを目指す。

全体総括

現状、浄化槽が健全に機能しているなどの理由により、接続率が低い水準にある。一方で、施設の経年劣化により維持管理費は増加傾向にあるため、使用料収入では汚水処理費の全額を賄うことが出来ない状況である。

このため、今後も公衆衛生の向上や河川等の水質保全を目的としつつ、安定した事業運営を行うためには、使用料収入の確保、維持管理費の削減を図るとともに、施設更新費の抑制に向けた取り組みが必要である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。